

2020年4月21日

各位

三井住友ファイナンス&リース株式会社

バイオガス発電事業向けプロジェクトファイナンス型リースについて

三井住友ファイナンス&リース株式会社(代表取締役社長:橘 正喜、以下「SMFL」)は、アーキアエナジー株式会社(代表者:植田 徹也、以下「アーキアエナジー」)が運営するバイオガス発電事業向けに、プロジェクトファイナンス型のリース契約を締結しました。当該事業から生じるキャッシュフローのみを回収原資としたノンリコースでの取り組みであり、大型のバイオガス発電では本邦初となります。

本事業の開発はアーキアエナジーが行い、匿名組合出資により設立された合同会社羽村バイオガス発電所(以下「羽村バイオガス発電所」)が事業者となります。主に関東圏で排出される食品廃棄物を原料とし、これらを発酵処理することで発生させたメタンガスを使用して発電を行います。SMFLは、羽村バイオガス発電所向けに食品廃棄物の中間処理設備(前処理設備、酸発酵槽、メタン発酵槽、消化液槽、排水処理設備)および発電設備一式(発電機、ガスエンジンなど)をリースします。この設備が稼働すると1日80tの食品廃棄物の処理が可能となり、発電容量は1,100kW、年間発電量として約770万kWh(一般家庭の約2,100世帯分の年間電力消費量に相当)の電力を供給することができます。運転開始は2020年7月を予定しています。

食品廃棄物は水分率が高いため燃焼効率が悪く、塩分が多く含まれることから焼却施設の劣化が進みやすいなど焼却処理に適さないとされています。また、こういった焼却施設の老朽化が社会問題となる中で、メタンガス化による廃棄処理への期待は高まっています。本件は、食品廃棄物のリサイクル率向上、温室効果ガスの削減に寄与し、循環型社会の実現に貢献する取り組みになります。

SMFLは、これまで再生可能エネルギー分野で培ってきた多くの知見・ノウハウおよびパートナーとのアライアンスをもとに、さまざまなファイナンスサービスやスキームを提供しています。また、現在進めているSDGs経営における主要施策の一つとして環境エネルギー分野に注力しています。これからも再生可能エネルギー発電を支援するさまざまなソリューションを提供していくことで、SDGsに積極的に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

以上

【本件に関するお問合せ先】

三井住友ファイナンス&リース株式会社 企画部 広報 IR 室 五十嵐 TEL 03-5219-6334